文献目録

文献調査委員会

注：○掲載順序：雑誌名・巻号・発行年月・論文名・ページ数・著者.
○目録欄に登載の雑誌はすべて土木学会土木図書館備付図書である。

交通工学 10—3 75—5

1 現状の寸描 (1~4) 清水誠一
2 道路計画における環境アセスメント (5~19)
3 自動車排出ガスによる大気汚染推定モデルについて (21~30) 黒沼・東原・堀江
4 業務交通の生成に関する産業組織論的考察 (31~40) 佐佐木・近藤
5 交通工学のための法律講座 (2)—道路計画と整備— (41~48) 奥野晴彦
6 1972 年ロンドン中心部におけるバスおよび自動車の旅行時間について (49~52)
7 人災渋滞 (54~55) 越 正毅

交通技術 366 75—5

8 新宿副都心総合整備計画の概要 その 2 (5~9) 増本・藤井
9 大清水トンネルの施工について (10~13) 清崎義春
10 昭和 50 年度運転事故防止対策 (22~24) 河路俊昭
11 961 形試作電車による技術試験結果の概要 (25~27) 伊藤敏夫

道 路 411 75—5

12 中部地方の地域課題と道路整備 (2~21) 黒田 晃
13 米国における鉄筋コンクリート道路橋の荷重係数設計に関する示方書 (22~29) 国広・朝倉
14 ペイ・ファクターを導入した米連邦道路庁の瀝青舗装工事仕様書 (30~38) 荒川正一
15 大阪市における史跡連絡遊歩道の設計 (39~45) 田高・芦見・弥田
16 「ベラザノナローズ橋の設計施工」の講演概要 (52~56)
17 建設機械化研究所 10 年の歩みと道路 (57~61) 三谷 健
18 道路史余話 日本橋 [その 2] (62~63) 吾孀東二郎
19 道路トンネル便覧の紹介 (64~71) 道路トンネル便覧小委員会

高速道路と自動車 18—5 75—5

20 物流と交通施設整備のあり方 (7~10) 広田孝夫
21 新しい路面凹凸評価の一考察—道路表面波の分析— (14~19) 岩瀬晃盛
22 昭和 50 年度高速国道予算の概要と問題点 (20~23) 山根 孟
23 飛騨川バス事故控訴審判決 (24~27) 原田勝弘
24 ヨーロッパの交通安全—とくに "夜間視認" "ヘリコプターによる救急医療システム" "安全ベルト着用" (28~33) 富永誠美
25 環境アセスメントの手法と応用 (34~39) 時乗・鳥居
26 電気自動車の可能性と限界 (41~44) 渡辺 正
27 鉄道費用，規模に対する収益および超過容量 (45~54) T.E. キーラー
28 インディアナ州における除草剤を使用する環境的に安全な路傍の維持管理の計画とその最少費用に関する研究 (55~61) D.J. ムーア

道路建設 327 75—4

29 総需要抑制と建設業 (3~6) 岡島孝雄
30 公共事業と景気浮揚 (7~9) 大島司朗
31 I.C. 周辺の土地利用状況調査報告—東北自動車道・白河～郡山 (14~21) 児玉源義
32 古代遺跡の保存と道路 (22~23) 関 勝
33 舗装の力学的診断法について (30~32) 植下 協
34 雪対策からみた高速自動車道の構造に対する一考察 (46~51) 松本栄一

道路建設 328 75—5

35 昭和 50 年度の道路整備事業概要 (3~10) 浅井新一郎
36 昭和 50 年度有料道路整備計画 (11~19) 下川浩資
37 昭和 50 年度高速自動車国道事業計画 (20~25) 山根 孟
38 昭和 50 年度地方道整備事業 (26~29) 三野栄三郎
39 昭和 50 年度街路関係事業概要 (30~35) 中野三男
40 多目的空間としての道路—地域社会に有効に機能するもの (36~38) 本吉庸浩
41 これからの道路 (39~44) 野村和正

舗 装 10—4 75—4

42 真砂土の加熱アスファルト安定処理路盤工の試験舗装 (3~8) 板倉年宏
43 阿倍野歩道橋の薄層試験舗装 (9~15) 浜・柳瀬・川嶋
44 寒冷地における表層用アスファルト混合物の改善 (16~20) 赤津武男，外３名
45 積雪寒冷地における路面性状調査 (21~27) 林・宮野・高嶋
46 アフリカの道路 (28~32) 三浦邦夫
47 道路土工 (33~37) 久野・稲田
48 アスファルトプラントの使い方 (39~40) 松本正美

舗 装 10—5 75—5

49 昭和 50 年度道路整備事業の概要 (3~7) 萩原 浩
50 農道整備の概要 (8~12) 牛腸一男
51 道央自動車道におけるすりへり量測定結果 (13~16) 小泉・天野
52 アスベスト入り混合物の試験舗装の追跡結果 (17~20) 赤津・村上
53 名四国道道徳高架橋の橋面舗装 (21~26) 千葉・加藤

舗 装 10—6 75—6

54 石灰の需要動向と生産体制 (3~7) 戸頃寨一
55 消石灰による安定処理工 (8~19) 金谷・日野
56 舗装工事の施工に伴う２，３の問題—東北自動車道の工事報告書より— (20~24) 田中・富田
57 北海道におけるアスファルト舗装の修繕 (25~29) 近藤博二
58 アブソン抽出法の改良に関する２，３の実験 (下) (30~33) 林 誠作，外３名
59 道路土工 (35~40) 久野・稲田

鉄道線路 23—2 75—2

60 山陽新幹線 (岡山～博多間) の軌道構造について (4~8) 柘植秀夫
61 山陽新幹線岡山博多間の構造物の概要 (1) (9~10) 倉元俊洋
62 上越新幹線降雪予知調査の概要 (11~16) 山田栄一
63 新しい線路保守作業標準 (案) (5) (17~19) 森重 剛
64 舗装軌道の施工 (21~28) 乾・沢田

鉄道線路 23—3 75—3

65 山陽新幹線開業準備について (7~12) 小林茂樹
66 山陽新幹線 (岡山—博多間) の線路の概要 (13~16) 安部成博

現場に、デスクに備えて役立つアース図書の土木実務書

◆わかりやすく、ていねいな、測量用数学の教本!!

測量計算の基礎演習

土橋忠則著
A5判324頁上製箱入ビニール表紙　定価2,800円(〒250円)

本書の特色

1.測量のための数学を実用的に解説　2.従来の型を破った立体的解説　3.読者の身になって、懇切ていねいに説明　4.数学の苦手な人には特に好適　5.豊富な例題、実務に即した実用的練習問題　6.高等な数学は一切省き、むだのない学習ができる　7.便利な数学公式集を収録

読者対象

全国測量専門学生、農業高校生徒、測量士・補、一般測量技術者、土地家屋調査士等受験者

◉本書を推せんします

初心者だけでなく、一般測量技術者にも好適……
東京大学名誉教授・国土建設学院長・理学博士　鏑木政岐

測量士・補、土地家屋調査士をめざす人のために……
東京教育大学助教授　中川徳郎

◆現場で役立つ、初級土木技術者・事務関係職員にも好適!!

図解・土木施工用語集

稲橋俊一・福地喜明・村上生而　共著
B6判274頁上製箱入ビニール表紙　定価1,800円(〒200円)

現場でよく使う通俗語、慣用語を多数図解入りで解説。
初級土木技術者、事務関係職員にも好適。
好評、大増刷!!

土木・建築のための構造設計グラフ

村上生而著
B5判 480頁　定価 4,800円(〒 280円)
応力計算や材料別断面計算がグラフですぐに求められる。
スピード設計グラフ!!

【申込要領】本書は書店にはありません。
1. ハガキか封書で当社宛直接どうぞ。電話にても可。
2. 代金着本後払いです。(送料当社負担)
3. 10冊以上一括ご注文の場合は1割引となります。

発行所　アース図書株式会社
東京都千代田区三崎町3－6－12
電話 03(261)2334　(263)4061
振替 東京 189837 郵便番号 101

内容見本請求券

出版案内
目録呈：読者Q1係

舗装新設計法　N.C.ヤン著

井上静三・山下弘美共訳　本書は空港舗装の設計方法に至るまでの原著者の研究と経験を述べたもので、新設舗装の設計、既設舗装の再設計、さらには経費上重要な現地材料の利用計画の設定などを詳細に論じている。空港舗装で実証された本書中の事柄は、道路舗装の設計にも十分適用できる。　菊／4700円

弾・塑性力学　山口柏樹著

応用力学の重要な基礎分科である弾性力学、塑性力学を建設関係の諸問題に適用する立場から、第1編では弾性・塑性力学に共通な基本的事項を詳しく述べ、2編、3編で弾性力学と塑性力学の構成および応用を述べた。各章中に例題を収め、さらに略解を含む演習問題を付けて読者の便に供した。　A6／2900円

最新土木計画学　吉川和広著

〈計画の手順と手法〉　気鋭の著者が土木計画の意義，計画の手順とその手法を適切な例題を示しつつ詳述した書。〔最新土木工学シリーズ14〕　A5／1800円

日本の土木地理　土木学会編

〈国土への理解と認識のために〉　国土に営まれ続けてきた土木事業と土木技術を地理学的な手法で考察した。　土木学会創立60周年記念出版　A5／3200円

〒102／東京都千代田区富士見1－4－11／電話03－265－8341代表／振替東京1－34757

森北出版

67 山陽新幹線（岡山―博多間）の軌道 (17~26) 磯浦・山口
68 軌道の建設工事 (27~35) 高原清介，外4名
69 山陽新幹線（岡山―博多間）の保守体制 (37~39) 上田隆三
70 速度向上試験（主として 160 km/h～210 km/h）(40~42) 小林茂樹
71 新幹線今後の展望 (43~45) 福岡祥光
72 東海道新幹線 10 年のあゆみ (46~50) 近藤吉郎
73 都市計画に関する法律 (51~55) 山田　明
74 線路基本構造基準規程 (57~58) 宮下邦彦
75 山陽新幹線（岡山―博多間）の構造物の概要（2）(59~62) 倉元俊洋
76 高速軌道検測装置（HISTIM）の開発 (63~67) 佐藤吉彦

鉄道線路　23―4　75―4

77 東海道新幹線の現状と今後の対策 (4~7) 大崎・佐藤
78 本社保線講演会の概要 (8~11) 上田隆三
79 381 系特急形電車と軌道保守について (12~16) 大池将明
80 新しい線路保守作業標準―特殊編機械化作業―（案）(6) (17~18) 斎藤八郎
81 新型モータカーロータリー（分離型）の導入について (19~21) 佐藤泰生
82 河川改修等関連工事（1）(22~23) 渡辺久吾
83 線路基本構造基準規程 (25~26) 宮下邦彦
84 欧州の地下鉄を見る（1）(27~32) 協会欧州鉄道視察団
85 騒音の話（1）(36~37) 伊藤　宏
86 まくらぎ下パッドの効果に関する理論的一考察―4質点モデルによる検討― (38~41) 黒田定明

鉄道土木　17―2　75―2

87 地盤の弾性変形の測定 <西武鉄道池袋駅> (6~10) 草刈清
88 分岐器防雪の考え方 (11~13) 伊東　信
89 アースアンカーによる土留工 <東北新幹線仙台駅> (15~17) 成田吉松
90 走行式タワークレーンによる鉄骨高架橋の架設 <新大阪駅ホーム増設工事> (19~23) 岩城・橋本
91 米坂線越後金丸付近の雪び爆破 (24~26) 柳瀬知央
92 仮設構造物の設計 (33~35) 高田武雄

鉄道土木　17―3　75―3

93 建設工事を省みて (8~9) 菅原　操
94 建設の概要　建設計画 (15~17) 信沢利世
95 用地・設計協議 (18~22) 相原・中村
96 路盤 (22~27) 伊藤孝之，外10名
97 橋りょう (28~34) 宮坂・神山・中野
98 トンネル (35~38) 伊藤・曲尾
99 停車場 (39~43) 朝田　光
100 軌道 (44~49) 田中五十六
101 安全管理 (49~52) 立川　博
102 新関門トンネルの施工 (53~57) 桜井三男
103 鉱害地域における構造物の設計と施工 (59~64) 森重・原・水野
104 岩鼻PCトラスの施工 (65~69) 末続　誉
105 博多総合車両基地の概要 (71~74) 曲尾・重住・岡部
106 まぼろしの音はスクリュー音 (79~80) 藤井知二
107 建造物保守基準ことはじめ（下）(75~78) 田中武夫

鉄道土木　17―4　75―4

108 地盤の変位を考慮した地中構造物の設計 (6~10) 野嶋・阿曽・高木
109 京都市地下鉄の建設計画 (11~15) 御竿信雄
110 パラグァイの鉄道 (17~20) 小林弘幸
111 活線のトンネル改築<蛇園トンネル> (21~25) 大沢一男
112 イコス工法による橋脚基礎の補強<中央本線多摩川橋りょう> (27~30) 村瀬芳昭
113 プレキャスト柱を用いた高架橋の施工<近鉄，南大阪線針中野駅> (31~36) 西本・飯間・川辺
114 改良型メッセルによる立体交差の施工（上）<旧千歳線東札幌駅構内> (37~40) 小寺　昭
115 プレキャスト工法による落石覆 (41~44) 小野田・渡辺
116 路面覆工の設計 (45~48) 高田武雄
117 環境変化による融雪期の出水 <摩周岳周域> (49~53) 坂本幸彦

JREA　18―3　75―3

118 旅客情報 (7~9) 佐川俊一
119 出改札 (10~12) 関　長臣
120 貨物輸送 (13~15) 神保和夫
121 運転管理―コムトラック (16~18) 山本一郎
122 運転管理・列車制御 (19~21) 石井康祐
123 地上設備の工事と保全 (22~24) 夜久忠雄
124 車両の運用と保全 (25~26) 河合　明
125 コンピュータシステムの開発主法と評価 (27~29) 稲田伸一
126 情報伝送 (30~32) 山津兵衛
127 低公害鉄道・新交通システム (33~35) 杉本　健
128 道路交通 (36~38) 倉内憲孝

JREA　18―4　75―4

129 中国の鉄道を視て (1~3) 滝山　養
130 車両火災対策の基本的問題について (4~7) 田中利男
131 東北・上越新幹線の雪害対策 (8~12) 宮本俊光
132 浮上式鉄道実験線の基礎構造物 (13~15) 町田富士夫
133 新幹線における運転管理システム (16~19) 稲田伸一
134 新幹線電車における車輪のフラット管理 (20~25) 東光・塩谷・大部
135 新幹線沿線建物の防音工法に関する研究/新幹線騒音補償に関する研究 (26~28) 清水湧逸
136 新幹線総合試験車のデータ処理 (29~32) 沢田・富田
137 武蔵野 YACS におけるマン・マシン・システム2 (33~36) 福井・山内・尾関
138 標準化業務研究会から (37~39) 前渕竜二

JREA　18―5　75―5

139 通勤列車運転速度検討委員会の報告について (2~5) 住田俊介
140 戦後の民鉄速度とこれから (6~7) 山本利三郎
141 軌道の速度向上 (8~13) 国分・隈部・福島
142 電車線と速度向上 (14~15) 久保和共
143 車両と速度向上 (16~19) 木村・藤井
144 運転速度向上の効果 (20~25) 大塚和之
145 新交通シスステムの実用化の可能性 (26~28) 岡田至弘
146 博多総合車両基地の概要 (29~35) 石井・片山
147 アメリカ，カナダにおける化成品輸送の安全対策 (36~39) 浅野幸夫

トンネルと地下　6―2　75―2

147 大岡川河底横断のシールド工事 横浜地下鉄3号線 (16~24) 篠原・林・杉本
148 トンネル太郎の活躍　新幹線黒石トンネル (41~46) 山守・桜木

基礎工学における
マトリックス有限要素法
O.C.ツィエンキーヴィッツ著
吉識雅夫・山田嘉昭監訳　￥6000
本書は好評の「マトリックス有限要素法」の改訂版で，その後の著しい進歩発展の成果と応用範囲の広がりを踏まえて全面的な増補・改訂を施したもので，シェル解析，固有値問題，非線形問題をはじめとして，構造力学全般にわたって旧版より数段詳しく論じられており，その応用例も豊富となった。有限要素法の最近の情勢を把握し，さらに今後に資する好適書である。

固体の力学入門 1・2
ポポフ著／成岡・浜田共訳 1・￥1900/2・￥1900
従来，“材料力学”と呼ばれてきた工業材料の変形挙動に関する基礎工学の分野を，新しい立場からきわめてわかりやすくまとめた一書。説明のため図面に特別の工夫をこらし，例題，演習問題を豊富に揃えて懇切に解説している。

構造力学入門 1・2・3
高橋武雄著　1・2各￥1700／3・近刊
非常に詳しく平易に書かれた教科書・参考書。構造物設計の基本となる重要問題をすべて網羅し，基礎理論から応用まで多くの例題を取り上げ解説・微分方程式による解法とともに，図式解法を広く用いている。

東京都千代田区
九段南4-3-12
TEL (03) 262-5256
振替 東京44725
培風館

コンピュータによる
マトリックス構造解析法
ジェンキンス著／奥村・吉田共訳　￥2200

重みつき残差法と変分原理
＝および流体力学，伝熱，物質移動への応用
フィンレイソン著／鷲津・山本・川井共訳　￥5000

土と基礎の振動＝地盤振動の基本知識
リチャード.Jr.,ウッズ他著／岩崎敏男・嶋津晃臣訳
基礎の動的応答計算の主要な方法を完全に網羅し、土の動的性状を求めるための現地および室内における各種の新しい試験法を提示し、さらに現場における地盤調査法を記述している。　A5判 ￥4,800

管渠の設計と考え方
下水道講座全6巻・〈第2巻〉第2回配本
本郷文男監修・忽滑谷良一編　A5判 ￥3,800
管渠の計画＝基本調査資料、測量と路線選定他／幹線の設計＝流域調査と路線の決定、流量計算他／枝線の設計／管渠設計指針と設計標準図、調査…他

環境アセスメントの基礎手法
＝地域計画への導入＝
吉川博也編（都市選書・新刊）　A5判 ￥3,900
本書のテーマは米国の国家環境政策法の基本骨子の理解に基づき、国土庁、建設省、環境庁を中心に建築学会、土木学会、日本学術会議などと多くの審議を重ねてまとめられている。

土質工学基礎叢書〈全10巻〉
監修・最上武雄

⑨斜面安定　小橋澄治著 A5判 ￥1,800
崩壊現象の理解／斜面の安定度予測／斜面災害防止他

⑦土　圧　松尾稔・富永真生著 ￥2,400
土圧の基礎理論／土圧の実態と設計法／理論と実際他

⑩土の締固め　河上房義・柳沢栄司著 予￥1,900
Proctorの締固めの原理、特性、施工の管理基準、機械他

新交通システム
石井一郎著　A5判 ￥2,000
新交通システムのソフトウエア、軌道輸送システム、連続輸送システム、無軌道輸送システム、複合輸送システム、在来交通機関の新しいハード＝無人自動化式鉄道、地下路面電車、ホーバークラフト、垂直離着陸機他

小社は注文制を主にしていますので、万一店頭にないときは書店にご注文下さい。

明日を築く知性と技術　鹿島出版会　107 東京都港区赤坂6-5-13 電話582－2251 振替東京180883

150 海外における道路トンネルの付帯設備（1）(7~15) 渡辺幸太郎
151 埋設管布設工事における地盤安定処理 (25~29) 小野・増田・後藤
152 実用期に入った泥水加圧シールド（1）(31~40) 佐藤広睦
トンネルと地下 6—3 75—3
153 新幹線岡山～博多間のトンネル (7~15) 天野・飯塚
154 地下鉄のセミ・グラインガシールド大阪市谷町線 (23~29) 平田武弘
155 営業中トンネルの改築工事 総武本線蛇園トンネル (31~37) 新藤 勇
156 海外における道路トンネルの付帯設備（2）モンブラントンネルの付帯設備 (16~22) 渡辺幸太郎
157 実用期に入った泥水加圧シールド（2）(38~43) 佐藤広睦
トンネルと地下 6—4 75—4
158 上下半断面の併進施工 東海道本線・新牧の原 (7~16) 桜井秀三
159 新型のミニ・シールド (25~33) 山本・石田・江原
160 具体化した福岡市の地下鉄 (17~24) 小宮研志
161 安房トンネルにおける地熱調査 (35~40) 白村・畑中
162 トンネル湧水と水涸れ (41~46) 池田・大島・石井
163 シールド工法入門（4）(47~55) 遠藤・宮崎
164 新しい発破技術（1）(65~60) 和田・坂野
区画整理 17—12 74—12
165 土地区画整理事業と地役権 (2~8) 相沢正昭
166 面的整備の手法について（7）—新都市基盤整備事業— (9~18) 江藤末信
167 尼崎市域の土地区画整理事業をふりかえって (19~30) 為近正博
168 横浜国際港建設事業十日市場地区土地区画整理事業における日向山神社の建物移転について (31~36) 戸塚玄三
169 研究学園都市計画の土地区画整理事業（続）(37~43) 斎藤修作
170 難渋基礎固めに 10 年—静清土地区画整理の場合— (44~50) 吉田 章
区画整理 18—1 75—1
171 地域振興整備公団について (8~11) 村山幸雄
172 生活圏整備事業構想試案—居住環境整備事業（大阪の例）— (12~19,32) 鍋島公郎
173 松戸市の現状と区画整理の PR (20~32) 福原 勤
都市計画 83 75—5
174 景観の概念と計画 (10~13) 井手久登
175 景観のコントロールと景観像 (14~23) 山田 学
176 街づくりと景観 (24~32) 戸沼研究室
177 都市の景観管理 (33~41) 紙野桂人
178 歴史風土的景観について (42~47) 亀井伸雄
179 道路景観 (48~54) 中村良夫
180 都市の後成的風景 (55~61) 小沢 明
新都市 29—240 75—4
181 土地区画整理法施行 20 周年に思う (4~7) 下出義明
182 土地区画整理法施行 20 周年に思う (8~10) 鶴海良一郎
183 わが国の土地区画整理とその将来 (11~14) 日笠 端
184 特定土地区画整理事業への期待 (35~38) 堀口友則
185 動き出した新本牧地区開発計画 (39~45) 塩崎厚吉
186 ショッピングモール計画 (46~49) 柳沢有人
187 新座市の志木駅前地区要請土地区画整理事業 (50~52) 須田善吉
都市問題 66—5 75—5
188 自治体における産業政策の課題 (3~14) 船曳 淳
189 産業政策の展開と地方自治体—工業を中心に— (15~25) 小桜義明
190 産業政策の展開と地方自治体—農業を中心に— (38~49) 梶井功
191 地場産業をめぐる自治体と住民 (50~60) 豊島 忠
192 オンブズマン論序説（3・完）(61~71) 渡辺栄文
193 米国近代都市計画における近隣住区論（上）(72~87) 渡辺俊
194 イギリスにおける国会議員の地方政治経験の論—Colin. Mellors の論説の紹介— (88~95) 土岐 実
土木施工 16—5 75—5
195 中央自動車道落合川橋（逆ローゼ橋）架設工事 (11~19) 鬼丸・草村・大角
196 中国自動車道（下関～山口間）の計画および施工（上）(20~26) 但馬・藤下
197 新宿駅南口付近建設工事—地下鉄・地下駐車場・ターミナルビル— (27~34) 島崎・小平
198 小金線建設工事における軟弱地盤の処理について (35~42) 伊藤・谷
199 機械化土木専用業者の現状とその進路（その2）(43~46) 山崎善弘
200 土木工事技術者学科試験施工管理の基礎講座（その3）基礎工・水理構造物 (47~51) 吉野次郎
201 シーバースの設計と施工（その5）(52~58) 渡・草野
202 変位を考慮した計算法による組ぐいの図表解（その4）(75~80) 竹下 淳
203 今月の資材・労務の動き（6）(81~86) 渡辺義正
204 単位円ークロソイド表の使用法（その6）(87~94) 岡崎義則
205 土木工学と安全構造物の破壊と事故に学ぶ（その 10）(101~104) 島田静雄
土木施工 16—7 75—6
206 東北新幹線第2，第3阿武隈川橋りようの上部工の施工 (11~16) 西田・鳥居
207 中国自動車道（下関～山口間）の計画および施工（下）(17~26) 但馬・藤下
208 水のエネルギーを利用する施工法の提案（その1）(27~33) 鳥内・安孫子
209 歴青材を使用したネガティブフリクション低減工法 (34~41) 斎藤 彰，外3名
210 軟弱地盤における橋りよう基礎の土止め施工計画について (43~48) 杉山・木村
211 荒川湾岸橋架設工事 (49~58) 宮嶋・深沢・及川
土木施工 16—8 75—7
212 平戸大橋の建設工事—パイロットロープの渡海作業を終えて— (11~18) 坂本良一
213 軟弱地盤における橋りよう基礎の土止め工施工計画—東北新幹線権現堂堀川橋りよう（2)— (19~25) 杉山・木村
214 浜名大橋下部工の施工 (27~35) 石丸・堀田
215 水のエネルギーを利用する施工法の提案（2）(36~41) 鳥内・安孫子
216 現場におけるフロッキュレーションの判定 (43~47) 大野俊夫
土木技術 30—5 75—5
217 北上川の酸性汚濁対策 (24~32) 今永幸人

朝倉土木工学講座

井島・岡田
春日屋　編集
〔既刊14冊・発売中〕

最新刊・15回配本・10月末刊(各巻A5)

第23巻 **岩盤力学**
名古屋大教授・工学博士　川本眺万著　価3000円

第2巻 **構造力学**　吉田　俊弥著　価 2800円
第3巻 **水理学**　岩佐　義朗著　価 2000円
第4巻 **水文学**　金丸・高棹著　価 2800円
第5巻 **土質力学**　赤井　浩一著　価 2000円
第6巻 **土木地質学**　大草　重康著　価 3000円
第7巻 **土木材料学**　大浜　文彦著　価 3600円
第8巻 **鉄筋コンクリート工学**　岡田　清著　価 3200円
第11巻 **橋梁工学**　渡辺　昇著　価 5800円
第12巻 **道路工学**　植下・加藤著　価 2500円
第15巻 **交通計画**　小川　博三著　価 1800円
第17巻 **河川工学**　吉川　秀夫著　価 2000円
第18巻 **発電工学**　高畑　政信著　価 2500円
第19巻 **海岸工学**　井島　武士著　価 2300円
第22巻 **環境衛生工学**　庄司・山本著　価 2300円

土木工学基礎講座

丸安・尾崎
山内　編集
〔全15巻・既刊6冊〕

最新刊・7回配本

第3巻
測量学
丸安隆和・中川徳郎著
A5　価2500円(10月末刊)

第1巻 **構造力学 I**(訂正版)　能町　純雄著　価 2500円
第2巻 **構造力学 II**　能町　純雄著　価 2300円
第4巻 **水理学**　松梨順三郎著　価 3000円
第7巻 **土木施工**　伊勢田哲也著　価 2800円
第8巻 **橋梁工学**　小堀　為雄著　価 2000円
第10巻 **土木材料**　西村　新蔵著　価 2300円

海洋開発技術ハンドブック

通産省海洋開発室・運輸省船舶局技術課編
●好評発売中　〔内容見本進呈〕
海洋開発技術のめざましい進歩は，材料・機器・装置などの多様化に伴い担当の技術者・研究者・行政官に全般的な幅広い知識を要求している。本書はそれらの基礎的事項を実際に役立つよう実例に即して記述した海洋開発技術に関する初の成書である。　★A5判1220頁　価15,000円

われらの地球

This Island Earth　——人工衛星写真——
原著：NASA
訳者：竹内　均・関口　武・奈須紀幸
本書は先に発売された『日本の衛星写真』（10,000円）の姉妹編で，宇宙からとらえたわが地球の全貌を紹介する人工衛星写真〔詳細内容見本呈〕
☆A4変型判・総アートカラー版価4500円発売中

図説 写真測量
西村蹊二著　価 1900円

土木建築 基礎工学ハンドブック
村山朔郎・大崎順彦編　価 9800円

コンクリート工学ハンドブック
近藤泰夫・坂　静雄監修　価 10000円

改訂新版 建設機械施工法
斎藤義治著　価 2300円

衛生工学ハンドブック
大橋・久保・松本・合田・徳平・杉木編　価 18000円

排水設備ハンドブック(増訂版)
東京都下水道局排水設備研究会編　価 4500円

理工図書目録進呈

朝倉書店
〒162 東京都新宿区新小川町2－10
電話（260）0141(代) 振替東京8673

218 振動試験とその解析例 (3) (33~42) 田村・西村
219 高速道路としてわが国最初のコンクリート舗装工事 (61~75) 懸川　澄
220 恵那山トンネル工事 (2) (76~87) 井出節雄，外３名
221 鉄筋コンクリート傾斜スターラップばりへのアプローチ (4) ―せん断強度に関する実験的考察― (43~49) 中川英憲
222 ＰＣ桁の架設工 (3) (50~52) 小林明夫
223 最近の着目すべき施工法―アースアンカー工法 (1)―荒木・岡崎
224 下水道の計画，設計，施工 (7) (97~101) 遠山　啓

土木技術　30―6　75―6

225 掘削土の再利用について (24~31) 小野・植田・柳沢
226 貯水池の表面取水設備 (33~44) 米沢卓志
227 山陽新幹線土木工事の施工 (45~52) 曲尾理三郎
228 黎明期の地下鉄建設と高速鉄道網計画の経緯 (1) (61~75) 君島光夫
229 京都市高速鉄道，鳥丸線の計画 (76~80) 御竿信雄
230 最近の着目すべき施工法―アースアンカー工法 (2)― (81~90) 荒木・岡崎
231 ＰＣ桁の架設工 (4) (91~95) 小林明夫

土木技術　30―7　75―7

232 既設道路橋の耐震度算定について (24~39) 佐藤次郎
233 現場自動溶接工法による超長尺控え杭の施工実験 (40~47) 田中藤八郎，外４名
234 日向神ダムにおける洪水流入量の推定 (48~51) 佐藤・権藤
235 黎明記の地下鉄建設と高速鉄道網計画の経緯 (2) (61~74) 君島光夫
236 荒川湾岡橋上部工の一括架設 (75~84) 佐藤・田中・正木

建設の機械化　303　75―5

237 車両系建設機械のヘッドガードの構造の規準改訂 (21~27) 安全対策専門部会ヘッドガード委員会
238 建設省の事業概要 (28~34) 谷沢義広
239 国土庁の事業概要 (35~40) 梅津昭三
240 日本道路公団の事業概要 (41~46) 石川昭雄
241 首都高速道路公団の事業概要 (47~51) 川上　潔
242 阪神高速道路公団の事業概要 (52~56) 北村正也
243 本州四国連絡橋公団の事業概要 (57~58) 尾仲　章
244 水資源開発公団の事業概要 (59~63) 伊集院　敏
245 日本住宅公団宅地開発事業の概要 (64~66) 吉宗一哉
246 下水道事業センターの事業概要 (67~79) 遠山　啓
247 地域振興整備公団の事業概要 (71~74) 富田耕太郎

施工技術　8―5　75―5

248 最近の機械化施工の現状と問題点 (7~10) 天野礼二
249 先進ボーリングシステム (11~17) 緒方義幸
250 ずり出しシステム (18~24) 下河内　稔
251 せん孔システム (25~29) 内田・大森
252 自動吹付システム (3~33) 飯塚一力
253 ドライパッチコンクリートシステム (34~36) 下河内・若月
254 作業管理システム (37~42) 山崎五郎
255 新大橋の撤去工事 (43~51) 青木・斎藤（斌），斎藤（良）
256 神田川水路工事における高速道路橋脚の防護 (55~63) 守屋・松田
257 フロンテジャッキング工法による架道橋の設計・施工 (65~74) 上・皆川・小野
258 ヒューム管ライニング方式による小断面シールド工法 (75~81) 伊藤・今村・森山
259 軟弱地盤上への下水道終末処理上の建設―鳥取市秋里終末処理場― (82~89) 前田・西川
260 水島油流出事故の教訓―壊れる論理の確立を― (90~92) 平井邦彦
261 設計までの土質調査法と土質試験法―耐震設計― (105~111) 稲葉誠一

土と基礎　23―4　75―4

262 都市工事における地盤安定処理工法の現状と将来 (1~2) 三木五三郎
263 都市工事における地盤安定処理工法の計画と実際 (3~12) 西嶋・和田
264 地盤安定処理の効果の 2,3 の確認法について (13~18) 鈴木健夫
265 圧気シールド工事に伴う現場透気試験について (19~27) 木島・藤村
266 洪積段丘砂レキ層中のシールドの計画について (29~36) 古林・高岸・鎌田
267 新東海道地下線における地盤安定処理法 (37~42) 河田博之
268 地下鉄工事における凍結工法について (43~48) 千本・伊藤
269 ブラインド式シールド工法における地盤沈下対策の一例 (49~55) 山口泰男，外３名
270 「薬液注入工法暫定取扱指針」の内容と下水工事への適用について (57~60) 武見英雄
271 C と ϕ を考える　5．レキおよびロック材 (67~75) 三笠・高田・西垣
272 振動公害とその対策（その４）(61~66) 中川・渡辺
273 土石流 (76~77) 奥田節夫
274 岩盤ボーリングのコア観察および記録 (78~80) 福田泰三

土と基礎　23―5　75―5

275 フィルダム技術の進歩と経済社会開発 (1~4) 高瀬国雄
276 フィルダム安定解析の流れ (5~10) 河上房義
277 フィルダム耐震設計のための動的試験について (11~20) 堤一，外３名
278 フィルダムの安定解析における地震力のとり方の問題点 (21~26) 河上・柳沢・森
279 フィルダムの挙動におよぼす水位変動の影響について (27~33) 大長昭雄
280 マサ地帯におけるフィルダム築造の問題点と対策 (35~42) 田中恭一
281 設計・施工上要求されるフィルダム盛土材料の性質 (43~50) 渡辺邦男
282 フィルダムにおける特殊土とその適用について (51~59) 百済・松原・飯田
283 ラジオアイソトープを利用した密度測定方法（RI 法）のフィルダム盛土管理への適用性 (63~69) 岩片　透
284 エネルギー危機とヨーロッパの電力事情 (70~76) 神谷貞吉
285 C と ϕ を考える　6．マサ土 (77~84) 福田・西田・沢
286 傾斜地造成の防災（その１）(85~91) 田中・清水
287 最近の第四紀地質学　1．その生い立ちと背景 (93~99) 柴崎達雄

土と基礎　23―6　75―6

288 砂質土の液状化による地盤の破壊機構 (1~4) 谷本喜一
289 水門置換砂の液状化予測と対策 (11~16) 柳堀義彦，外３名
290 液状化に対する地盤の耐震設計法の現状と問題点 (17~22) 土田　肇
291 液状化した砂地盤における構造物の挙動と被害防止対策

発行 山海堂

〒113 東京都文京区本郷5-5-18
振替東京194982 ☎03(816)1617

土木施工法講座 全26巻

《特　色》
環境公害に対処する防災技術を導入◉今日的見地から土工、長大橋梁、特殊構造物等をも加えて、あらゆる分野の施工方法を網羅◉斯界の第一線で活躍されている新進気鋭の執筆陣を結集◉現場技術者から学生まで活用できる巾広い実践的指導書

体裁■A5判／上製／函入／平均400頁

【詳細内容見本呈】

編集委員長
青木楠男　日本学士院会員 工博

編集幹事
山田順治　日本セメント㈱ 常務・工博
遠藤貞一　建設省専門委員

編集顧問
福岡正巳　東京大学教授 工博
菊池三男　建設省技監
高橋浩二　国鉄・常務理事
鈴木俊男　東京都建設局 技監・工博

第一回配本　15巻―1(上)・2(下)　2冊同時発売中

地下鉄道施工法（上・下）

渡辺　健・塚田　章・和田一郎・猪瀬二郎共著

(上)360頁 3500円　(下)420頁 3800円

主要目次■上巻　総論／開削工法(連続地中壁工法／路面覆工他)／ケーソン工法と沈埋工法／補助工法(薬液注入工法／地下水位低下工法他)　下巻　シールド工法(地山安定処理工法／プライド工法他)／水平掘進工法(山岳トンネル工法／メッセル工法他)／深礎工法、トレンチ工法及びアンダーピニング工法(深礎工法／トレンチ工法他)／建設費と工法の選定(シールドトンネルにおける工法の選定他)／環境防災対策(工事公害の防止他)

第二回配本　12巻　11月下旬刊

電力土木施工法

総論／水力発電設備(水力発電／ダム／水路他)／火力、原子力発電設備(護岸・埋立／港湾施設／冷却用水路／燃料設備／構内整備他)／送変電設備(架空送電線他)

第三回配本　19巻　51年1月刊

トンネル施工法

高山　昭

第四回配本　5巻　51年3月刊

橋梁下部構造施工法

駒田敬一

水越達雄著　400頁

土木施工法講座 全26巻 内容

(注)*印＝第一期刊行予定

1 土工施工法……山村和也
*2 道路施工法……佐藤秀一
3 鋼橋上部構造施工法……池田肇
*4 コンクリート橋上部構造施工法……国広哲男
*5 橋梁下部構造施工法……駒田敬一
6 長大橋梁施工法……大橋昭光
7 基礎の施工法……藤田圭一
8 河川工事施工法……井上淳昭
*9 河川構造物施工法……伊藤弘住
10 ダムの施工法……佐々木才朗
11 砂防地すべり防止施工法……谷勲
*12 電力土木施工法……水越達雄
13 上水道施工法……松田暢雄
*14 下水道施工法……遠山啓
*15 地下鉄道施工法(上・下)……渡辺健
16 鉄道保線施工法……渡辺勇作
17 鉄道土木施工法……建部恒彦
18 港湾空港施工法……原口好郎
*19 トンネル施工法……高山昭
20 特殊構造物施工法……川嶋賢一
21 宅地造成施工法……秀島敏彦
22 コンクリート施工法……村田二郎
*23 鉄道コンクリート施工法……津野和男
24 建設機械の運用管理……津雲孝世
25 実用土木材料……柳田力
26 土木施工管理……稲見俊明

(17~22) 吉見・桑原・橋場
292 液状化を考慮した基礎構造物設計上の問題点 (23~28) 矢作・和田
293 液状化に及ぼす地震波の不規則性と初期拘束圧の影響 (29~35) 石原・安田
294 土の液状化に及ぼす粒度および細粒分含有率の影響 (37~44) 渡辺忠雄，外3名
295 朝霞水路のアンダーピニング (45~51) 永井　正，外3名
296 空気圧制御方式による三軸試験装置とその適用（その2）(53~59) 赤井・足立・田伏
297 Cとϕを考える　7．シラス (67~74) 春山元寿
298 傾斜地造成の防災（その2）—特に近畿地方を中心として— (83~90) 田中・中世古
299 最近の第4紀地質学 2．地質調査—上総層群を対象として— (75~82) 三梨　昂

基　礎　工　3—3　75—3

300 矢板式基礎の発達経過と現状 (4~10) 駒田敬一
301 矢板式基礎の設計法と問題点 (11~20) 高橋陽一
302 矢板式基礎（鋼管矢板井筒）の施工法と問題点 (21~26) 北山　昇
303 H型鋼矢板を用いた矢板式基礎 (27~34) 福家・儀賀
304 鋼管矢板の規格と継手について (35~39) 鋼管杭協会
305 東京湾横断道路のセル工法—鋼管矢板のセル予備実験について—(40~46) 西片・小崎
306 末広大橋の鋼管矢板式基礎 (47~54) 波田野義孝，外3名
307 南港連絡橋の矢板式基礎 (55~61) 笹戸・松本
308 火炎ジェット鋼管切断機による鋼管の水中切断の実施報告 (62~67) 守屋研治
309 福山製鉄所における矢板式基礎 (68~73) 広瀬・島岡
310 鋼管矢板の水中切断 (74~83) 嶋　文雄

基　礎　工　3—4　75—4

311 地盤表層の破壊の現状と安定処理　(2~10) 松尾新一郎
312 路床路盤の安定処理 (11~19) 南雲・永康
313 石灰類による土質安定処理工法 (20~28) 稲田・加藤
314 シート工法 (29~35) 西林清茂
315 のり面安定工法 (36~42) 小橋澄治
316 工事用機械搬入設置のための表層地盤の安定処理 (43~48) 内藤・小谷・串間
317 東北高速道路須賀川工区における石灰安定処理工法を用いた下部路床改良工事 (49~55) 瀬之口・池田・佐久間
318 東海道貨物別線，羽沢貨物駅における大気圧工法を用いた軟弱地盤の処理 (56~65) 山本・小林
319 大規模土地造成工事におけるシート工法の施工例 (66~74) 皆見・平田
320 薬液注入工法の最近の安全管理方法 (75~82) 兼松　陽
321 薬液注入剤の性質と公害について (83~87) 薄井宗光

土木技術資料　17—4　75—4

322 超過外力と河川計画 (3~8) 石崎勝義
323 ロータリビットによる硬岩削孔実験 (9~13) 本田・中野・石島
324 コンクリートの摩損試験 (14~19) 柳田・樽沼
325 ブルドーザの転落実験 (45~46) 桑垣悦夫
326 デュアルモード・バスの実験開始 (47~50) 藤田大二

土木技術資料　17—5　75—5

327 コンクリートに寄せる期待 (1~2) 柳田　力
328 コンクリートの材料，施工に関する最近の動向 (3~7) 柳田力
329 コンクリート構造物設計における最近の傾向 (8~13) 小林茂敏
330 レデーミクストコンクリート使用上の諸注意 (14~19) 太田実
331 温水養生によるコンクリート供試体の促進強度に関する共通試験 (20~24) コンクリート研究室，各地建技術事務所
332 コンクリートダムの新しい施工法 (25~30) 飯田隆一
333 連続鉄筋コンクリート舗装 (31~35) 飯島・安崎・広田
334 高速走行時のすべり摩擦係数（その3）—ハイドロプレーニングについて— (36~39) 栗本・小野田・田宮
335 コンクリート標準示方書（昭和49年度版）における目新しい事項 (40~48) 太田　実
336 インドネシア，ソロ川水理実験所における2ケ年—コロンボプラン専門家として参加して— (49~53) 佐久間　襄

土木技術資料　17—6　75—6

337 海洋法と資源開発 (1~2) 今西誠也
338 社会的紛争に関するシステム分析 (3~8) 三好逸二
339 よう着型トラフイックペイントの品質および物性 (9~14) 蒔田・坂本・吉村
340 簡易舗装路盤の耐久性—自動操縦荷重車による走行試験結果 (15~20) 南雲・安崎・永康
341 有限長遮音壁の減音効果 (21~27) 野中　宏
342 航空写真による洪水流の観測 (28~34) 木下・須賀・堀口
343 別大国道消波護岸の水理的特性 (35~41) 橋本・川村
344 降雨引き伸ばしの限界づけ (42~46) 岡野真之

農業土木学会誌　43—4　75—4

345 大学における農業土木教育／大学教育問題委員会 (6~46) 農業土木学会大学教育問題研究委員会
346 高等学校における農業土木教育の現状と問題点 (47~55) 古屋・高幣・林
347 農林省農業土木技術研修の現状と問題点 (56~59) 秋山喜夫

農業土木学会誌　43—5　75—5

348 質と量を兼ね備えた農業水利へ (2~4) 田渕俊雄
349 暗キョ排水機能促進剤について (1) (5~12) 神部広之，外3名
350 農地造成事業と蓄産開発 (13~17) 武上成比古
351 スルースゲートの自動操作機構への自動制御理論の適用例 (18~24) 関谷・石野
352 農業土木技術者のための流量の測定と解析（その6）1．現場における取水量調査の流量測定と解析 (25~29) 梅津　進

農業土木学会論文集　56　75—4

353 干陸後の塩分挙動—笠岡湾干拓干陸ヘドロ地の農地基盤整備に関する基礎的研究（III）(1~7) 長堀・佐藤
354 農地の土壌侵食量の予測 (8~12) 種田行男
355 比負荷による点源負荷と面源負荷の分離—霞ケ浦流入河川の水質汚濁と流出負荷に関する研究 (1)— (13~29) 田渕俊雄，外5名
356 傾斜壁面に作用する波圧に関する研究 (21~28) 玉井・小林
357 固定鉛直壁による波の反射および透過に関する研究—とくに反射率，透過率の表示について— (29~35) 金山和雄，外3名
358 限界掃流力の理論的考察—乱渦による河床砂レキの選択抽出に基づく掃流砂に関する研究 (1)— (36~41) 関谷光博
359 暴気式の誘導とその立証—段落流の暴気に関する研究 (1)— (42~48) 中曽根英雄

共立出版

112 東京都文京区小日向4 Tel 03(947)2511 振替東京57035

応用弾性学

川本眺万著 一七〇〇円

平面応用力および平面ひずみ／二次元問題／平面板の曲げ／光弾性実験法／応力集中係数ほか

土質力学

後藤正司著 一五〇〇円

土の組成と物理的性質／土の応力表示／土中の応力分布／基礎の支持力／土の動的性質ほか

水理学 改訂版

小川 元著 一二〇〇円

水の水理学的性質／流れの一般理論／流れの運動方程式／孔口／せき／管の特殊な問題ほか

応用流体力学

室田 明著 一六〇〇円

流れの分類と概説／完全流体の基礎方程式／完全流体の力学／粘性流体とその基礎方程式ほか

土木材料 I —鋼 材—

堀川浩甫著 一四〇〇円

鋼の製造と検査／鋼の冶金的性質／鋼の機械的性質／鋼の溶接性／付録——鋼の種類と規格

土木材料 II —コンクリート—

村田二郎・長滝重義・菊川浩治著 一八〇〇円

セメント／混和材料／まだ固まらないコンクリートの性質／配合／現場練りコンクリートほか

土木材料 III —アスファルト—

菅原照雄・工藤忠夫・有福武治編 一六〇〇円

アスファルト材料の製造／アスファルト混合物／アスファルトの改質と特殊アスファルトほか

土木地質学

宮崎政三・高橋彦治著 一三一〇〇円

土木工事における地質学の応用／地質時代の区分／地殻に働く営力／日本の地質構造ほか

橋梁工学 改訂版

橋 善雄著／中井 博改訂 三五〇〇円

プレートガーダー橋／合成げた橋／ゲルバー橋およびラーメン橋／アーチ橋およびラーメン橋ほか

鉄筋コンクリート工学

横道英雄・藤田嘉夫著 一五〇〇円

鉄筋コンクリート材料／曲げをうけるはり／ねじりをうける部材／一般構造細目／スラブほか

上水工学

選 巌著 一六〇〇円

基本計画／水質／水源／導水／沈澱／砂濾過／殺菌／特殊浄水／送水・排水・給水ほか

地震工学

金井 清著 一七〇〇円

地震計／地震動の強さ／地震の規模／地震活動史／地震波／地震振動／構造物の振動ほか

港湾工学

長尾義三著 三五〇〇円

港湾と経済／港湾と自然条件／港湾計画通論／ふ頭およびふ頭施設／港湾施設の設計通論ほか

トンネル工学

粕谷逸男著 二一〇〇円

岩石と岩盤の性質／トンネル周辺の応力状態とトンネルに作用する荷重／爆破による掘削ほか

防災科学技術シリーズ

自然災害・公害・産業災害など、わが国に起こる重要な各種災害について、その原因・実態・防ぎ方からそれらに関する研究を、新しい角度から考究した防災技術シリーズ。

気象災害……畠山久尚編 一五〇〇円

津波・高潮・海洋災害 和達清夫編 一八〇〇円

地震災害……河角 広編 一八〇〇円

海岸防災……本間 仁編 四〇〇〇円

土木構造物防災 岡本舜三編 一三一〇〇円

農林防災……大後美保編 一八〇〇円

水産防災……宇田道隆編 一八〇〇円

火 災……中田金市編 三五〇〇円

交通施設防災 八十島義之助編 三〇〇〇円

共立建築新辞典

編集委員長＝加藤 渉 五八〇〇円

◆本書を3部に分け、第1部は用語解説、第2部は欧和対訳・索引、第3部は付表として雑誌・機関略号一覧・度量衡(SI準拠)・諸定数換算表を収録した。

◆用語は厳選して12,000語とし、ハンディな造本に努めた。

◆用語は口ーマ字表記とし、旧漢字も注記した。

◆英語はもちろん、ドイツ語・フランス語など対照外国語を豊富に収録した。

◆欧和対訳・索引は各国語をABC順に配列し、欧和用語辞典としての機能をも持たせた。

◆各種の記号を用いて法規・特殊用語・同意語などが判然とするようにした。

測　　量　25—5　75—5

360 時刻系と時報信号 (4~9) 進士　晃
361 人工衛星を利用した位置の決定 (30~34) 宮崎大和
362 ベトナムの測量事情 (10~15) 中川徳郎
363 4カ国重力結合ふんとう記（下）(16~21) 瀬戸孝夫
364 日本測量地図史上に先駆せる人達 (3) (22~27) 桶　善雄
365 フローチャートによる総合測量解説 (2)　(40~45) 千葉喜味夫

測　　量　25—6　75—6

366 ケニアの開発と測量 (4~11) 田島・五条
367 サウジアラビア国国土基本図作業の概要 (12~17) 宇佐美嘉平
368 バングラデシュ国ジャムナ架橋調査測量 (18~24) 菊池政夫
369 ボリビア調査の概要 (25~29) 坦下精三
370 モロッコでの3年5ケ月 (30~33) 羽吹　登
371 最近の測量業界の実態とその方向 (42~45) 佐藤義信

測　　量　25—7　75—7

372 国土情報整備事業の概要 (4~7) 西藤　沖
373 国土情報整備事業におけるカラー写真 (8~11) 五条英司
374 国土情報整備事業におけるカラー写真　土地利用図 (11~15) 中村六郎
375 多賀城地区における二次基準点測量 (20~24) 斎藤，国見
376 国土情報整備事業におけるカラー写真　地図情報システム (15~19) 尾崎幸男
377 測標の変遷　写真の頁 (30~35) 広部正信

セメント コンクリート　339　75—5

378 本邦セメント工業 100 年小史 (12~29) 杉下捨三
379 わが国セメント製造技術の進歩—たて窯から NSP キルンへ— (50~56) 森　茂二郎
380 生コンクリート工業経済史観 (57~60) 高橋一郎
381 土木におけるコンクリート (61~64) 樋口芳朗
382 建築におけるコンクリート (65~68) 岸谷孝一
383 生コンユーザーへの提言 (69~76) 守屋一光

セメント コンクリート　340　75—6

384 暑中コンクリートのスランプ低下防止法に関する研究 (2~12) 岸谷孝一
385 昭和 49 年度セメント共同試験結果 (13~18) 野木孝次，外
386 沖縄における暑中コンクリート試験舗装 (1)—高温時に施工したまだ固まらないコンクリートの性状— (19~27) 高沢信次郎，外
387 レデーミクストコンクリート工場の回収水の利用に関する研究 (4)—回収水がコンクリートの乾燥収縮におよぼす影響— (30~35) セメント協会収縮専門委員会

セメント コンクリート　341　75—7

388 コンクリート品質の早期判定方法 (2~10) 柳田　力
389 レデーミクストコンクリート工場の回収水の利用に関する研究（その5・完）回収水がコンクリートの乾燥収縮におよぼす影響 (2)— (11~17) セメント協会収縮専門委員会
390 沖縄における暑中コンクリート試験舗装（その2・完）高温時に施工したコンクリートの強度など— (20~25) 小沢　栄外
391 コンクリートと山陽新幹線 (26~32) 野口　功

プレストレスト コンクリート　17—2　75—4

392 ボックスフレームの破壊機構—部分的にプレストレスを与えた場合— (3~13) 神山　一
393 熊本東映セントラル新築工事の設計および施工 (14~19) 池田永司，外3名
394 浜名大橋の設計について (20~29) 鈴木，石丸
395 九州高速道路水城高架橋PC上部工施工報告—PC連続多重箱桁（5主桁4室構造）(30~40) 山本隆義，外3名
396 アンボンド工法用PC鋼材について (42~47) 川端義則
397 プレストレストコンクリート構造計算入門 (2) 構造計画 (48~57) 岡本　伸

コンクリート工学　13—5　75—5

398 軽量コンクリート (1~11) 上村克郎
399 低スランプ軽量コンクリートの水平圧送に関する実験的研究 (12~21) 嵩　英雄，外5名
400 人工軽量骨材の発泡機構と超軽量骨材の試作 (22~27) 吉岡　隆
401 構造用超軽量骨材の開発と実用化の検討 (28~38) 嵩　英雄，外5名
402 より軽い軽量コンクリートについて (39~48) 木村恵雄，外4名
403 超軽量コンクリートの基礎的検討 (49~59) 横山・山下・伊藤
404 人工軽量骨材の生産および使用の実績 (60~64) 人工軽量骨材協会

材　　料　24—259　75—4

405 粉体材料工学におけるレオロジーの役割（その2）(283~290) 梅屋　薫
496 時効した Cu-Be 合金の K_6 値とかたさの相関性について (291~295) 井渕弘昭，外4名
407 Fe 33% Ni 合金のマルテンサイト→オーステナイト逆変態温度に及ぼす前処理の影響 (296~300) 牧　正志，外3名
408 硬鋼の繰返し応力-ひずみ関係およびヒステリシスループ形状に及ぼすひずみ履歴の影響 (301~307) 河本・並木・堂前
409 積層 GRP 板の圧縮特性 (308~313) 鈴木・宮野・天城
410 アクリル系ポリマーエマルジョン混入セメントモルタルの乾燥収縮に関する研究 (314~319) 徳本　実
411 無電解ニッケルメッキ材の疲労強度 (320~325) 泉・砂田・近藤
412 スポット溶接した冷延鋼板の疲労強度 (326~332) 青山・藤本
413 高温高濃度アルカリ溶液中での鉄の孔食 (333~339) 日根・保田・佐藤
414 有限変形解析に関する2,3のコメント (340~343) 瀬口・富田・北川
415 実働荷重下における機械，構造物疲労寿命の信頼性解析（I）信頼性工学の基礎概念 (344~355) 石川　浩

材　　料　24—260　75—5

416 フレッシュコンクリートの性質—レオロジー的アプローチ (358~367) 西林新蔵
417 複合材料としてのコンクリートの力学性質 (368~379) 小阪・谷川
418 ポリエステルレジンコンクリートの劣化について (380~385) 川久保専吉，外3名
419 スプライススリーブ工法による異形鉄筋継手について (386~393) 児玉和己，外3名
420 レジンコンクリートの材料特性の温度依存性について (394~400) 岡田・米沢
421 放射線重合法によるポリマー含浸コンクリートの適正重合条件 (401~407) 大岸佐吉，外6名
422 ポリエステルレジンコンクリートの強度に及ぼす蒸気養生の効果 (408~410) 大浜嘉彦

日本建築学会編

実務的騒音対策指針

B5・3,500円

本書は騒音防止方法のうちの主に伝搬経路対策に必要な資料・指針を提供する。視覚的なパターン表示法を特色とし，利用者は対策を立案する伝搬経路と計算方法，計算式，計算図表等の表示されているパターンとの相似から有効な計算方法等の選択を容易にできる。また最新のデータを使い易い形に収録。騒音対策の計画や計算等の実務に広く役立つ書。

〔内容〕1. 騒音防止計画法〈騒音防止計画の進め方／伝搬条件のパターン表示／計算図表／対策の計画例〉　2. 騒音対策資料〈騒音の実態／しゃ音構造材料／吸音構造材料／騒音に関連ある法規・基準・規格〉付録〈騒音の評価法／測定機器／騒音対策のための測定法〉

地形学

F. マハチェック著
H. グラウル／C. ラチェンス改訂
松尾新一郎監訳　B5・3,000円

地形学の概要を記述した権威ある教科書として広く高評を得ている名著を最新の成果をふまえて補足改訂したものの最新訳。土質工学，基礎工学等の調査，研究の指針となる好参考書。

景観の構造

═ランドスケープとしての日本の空間═

樋口忠彦著　B5・2,500円

ある視点からのランドスケープがどのように認識されるかを多面的に深くほりさげ，さらに日本の伝統的な景観を分類し，独創的な方法により，みごとに分析する。日本の空間論，景観論を独自に展開した数少ない好書。

技報堂
東京都港区赤坂1-3-6
TEL (03) 585−0166

山形産ベントナイト

クニゲル

基礎工事用泥水に

●高い粘性
●高い膨潤
●少ない沈澱
●少ない脱水

永らくご迷惑をおかけ致しました
お陰様で鉱山の体制が整い
供給力が増大しつつあります
変らぬ御用命をお願い致します

國峯礦化工業株式会社

本社　東京都中央区新川1−15−2　電話(552) 6101代表
工場　山形県大江町左沢　電話(023762)2255−6
鉱山　山形県大江町月布　電話(023766)　14

423 レジンコンクリートおよびポリマー含浸コンクリートの海洋工学的耐久性 (411~417) 岩崎　博

424 フレッシュコンクリートのレオロジー的性質に関する研究—回転粘度計の設計およびペースト，モルタルについてのの実験— (418~424) 西林・大山・阪田

425 練り混ぜ水に海水を使用したコンクリートの諸性質について (425~431) 枷場重正，外3名

426 高強度コンクリートの諸特性と耐久性について (432~440) 近藤・小柳・児玉

427 鉄筋コンクリート断面の破壊時コンクリート圧縮縁ひずみに関する研究 (441~446) 六車　熙

428 剛性試験機の設計・製作とコンクリート剛性試験結果について (447~454) 平松良雄，外4名

429 18％Ni マルエージング鋼の疲労き裂の進展について (455~461) 酒井・藤谷・田中

430 低温焼入れした低炭素鋼の高温疲労強度に及ぼす時効の影響 (462~468) 桜井・小金井・田中

431 強さ（パワ）の異なるガウス性ランダム荷重の重複負荷下における疲労寿命の推定 (469~476) 河本　実，外3名

432 実働荷重下における機械，構造物疲労寿命の信頼性解析（II）（ワイブル破壊確率モデルならびに順序統計と T.T. FF) (477~488) 石川　浩

材　　料 24—261 75—6

433 種々の前負荷後の降伏曲面について—その研究の発展過程と現状（その1）(491~504) 池上皓三

434 逆浸透用膜材料に関する研究 1. 酢酸セルロース（キャスト条件) (505~510) 油井敬夫，外3名

435 逆浸透用膜材料に関する研究 2. 酢酸セルロース（濃度分極および塩ゲル化) (511~515) 油井・黒川・稲葉

436 逆浸透用膜材料に関する研究 3. 酢酸セルロース（水蒸気吸着および透過機構) (516~519) 油井・黒川・古田

437 純 Al 薄膜の引張破壊過程の透過電子顕微鏡内直接観察 (520~525) 芳井熊安，外3名

438 回転機固定子巻線の導体と絶縁物の間の力の伝達機構の検討 (526~533) 二川暁美，外3名

439 繰返し載荷後のコンクリートの圧縮強度に及ぼすマイクロクラックの影響 (534~539) 吉本・川上

440 0.82％C ピアノ線の腐食疲労被害について (540~544) 御牧拓郎

441 高温における耐熱鋼 A286 のクリープ破壊と疲労との相関性に及ぼす切欠き効果に関する研究 (545~550) 大南・坂根

442 *p*-スルホンアミンド・ベンズアミドおよびテレフタルアミドとホルムアルデヒドとの付加縮合物について (551~565) 根来健二，外3名

443 差分近似を用いた3次元動的構造解析法 (557~562) 花崎紘一，外3名

444 実働荷重下における機械・構造物疲労寿命の信頼性解析（3）（母数推定の統計的手法と安全寿命の決定…その1）(563~573) 石川　浩

橋　　梁 11—5 75—5

445 江別バイパス，新江別橋の設計と施工について (2~10) 三本松順，外3名

446 一般国道7号—新見バイパス，新泰平橋の設計と施工について (11~21) 土屋・豊岡

447 沖縄縦貫道・IB グレーチング床版を採用した湖辺底橋の設計と施工 (22~29) 佐々木・山田

448 近畿道，明治橋の設計と施工について (30~35) 平岡・深尾

449 鳥取バイパス—新八千代橋の設計と施工について (36~46) 木谷　昭，外3名

450 送電用鉄塔特殊基礎の設計施工についての考察 (47~50) 揖斐　勉

451 電子計算機による繰り返し計算の効用 (54~57) 大山　浩

452 日本の橋の歩み（日本橋梁小史）④ (51~53) 川田忠樹

453 橋を訪ねる⑤……クジラ橋 (58~59) 小林　豊

橋梁と基礎 9—5 75—5

454 最近のわが国における道路橋の動向—長大スパン橋を中心としたー (1~6) 関　淳

455 荒川湾岸橋上部工の架設 (7~14) 木村・木田・正木

456 橋梁用図形処理言語システム (15~22) 北島・松原

457 彦島大橋の計画と設計・施工（下) (23~27) 澄川・古谷

橋梁と基礎 9—6 75—6

458 プレテンション方式 PC 単純中空床版橋の標準設計 (1~7) 岩松・藤田・工藤

459 プレストレスしない連続合成ゲタの温度差および乾燥収縮による応力計算式 (8~11) 関西道路研究会，道路橋調査研究委員会，合成構造小委員会

460 アクアポリスの計画と建造 (12~16) 大高英男

461 明治橋の補修・補強および拡幅工事 (17~20) 松本・多田

462 橋梁製作における原寸作業自動化システムの開発 (24~28) 瀬良・柴田・小野

463 斜面上の大口径深礎グイの水平抵抗—中央自動車道沓掛工事— (29~37) 赤井・石原・森山

464 トラン橋の2次応力（上) (38~43) 伊藤・田辺

465 欧州橋梁技術調査団報告—最終報 (44~46) 調査団グループ

橋梁と基礎 9—7 75—7

466 建築基礎構造設計規準 (1~4) 駒田敬一

467 阪神高速道路阿波座工区の設計—曲線立体ラーメン構造— (5~10) 三輪準之助，外3名

468 戸板島橋のケタ架設時応力測定 (11~13) 渡辺守男，外3名

469 長大斜張橋の構造特性と耐風安定性（上) (14~20) 笹戸・江見・北沢

470 薄肉多角断面バリの曲げねじれに関する基礎理論—開断面の場合— (24~29) 深沢泰晴

471 トラス橋の2次応力（下) (30~35) 伊藤・田辺

472 マイヤールの橋—その美と技術— (36~42) 関　淳

溶接学会誌 44—5 75—5

473 日本における溶接の展望（1974—1～12) (5~76)

474 破壊領域観察にもとづく鉄鋼の水素脆化機構に関する研究（第2報) (77~84) 菊田・荒木・黒田

溶接技術 23—5 75—5

475 日溶協・溶接検査委員会（CIW）の活動と将来 (23~27) 三上　博

476 橋梁の安全性と検査 (28~31) 明石重雄

477 パイプラインの安全対策 (32~35) 成田圀郎

478 船舶の安全管理と溶接 (36~39) 賀来信一

479 輸出工事における溶接上，検査上の問題点 (40~44) 大庭　浩，外

480 内外溶接検査規格について (45~48) 妹島五彦

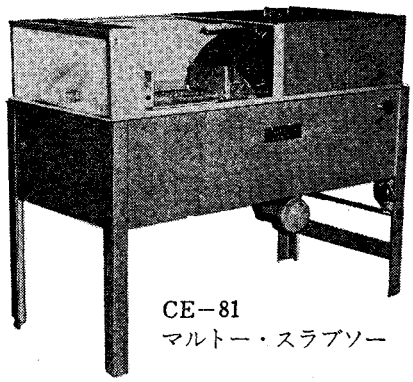
河　　川 345 75—4

481 地下水管理体制の確立を急げ (3~4) 谷村喜代司

482 住民運動への対応と説得 (5~7) 堀川直義

483 河川に対する環境アセスメント (8~18) 吉川博也

切 断 機（供試体作成用）

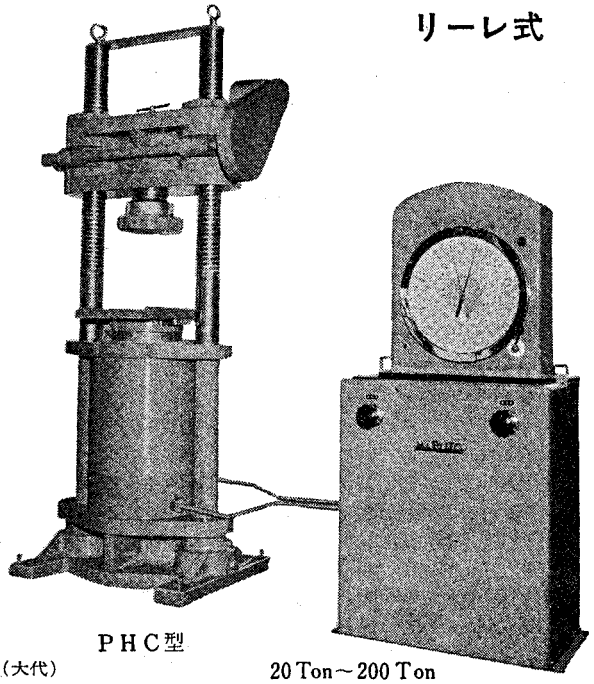


CE−81
マルトー・スラブソー

営 業 品 目
セメント・コンクリート試験機
土質・アスファルト試験機
油 圧 万 能 試 験 機
岩石・金属・光弾性試料切断・研磨機

圧縮材料試験機

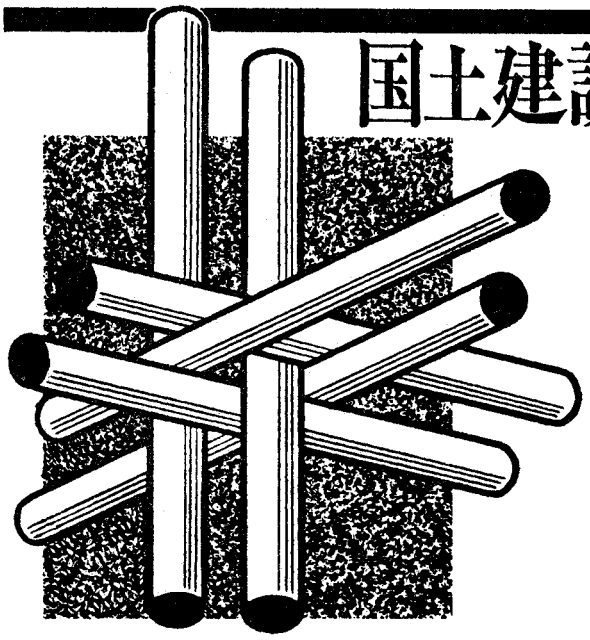
リーレ式



PHC型　20 Ton～200 Ton

株式会社 丸東製作所
〒135 東京都江東区白河2-15-4　TEL東京(03)643−2111（大代）

国土建設はこのブレーンで!



コンクリートAE剤 ヴィンソル
型枠剥離剤 パラット
コンクリート養生剤 サランラテックス
コンクリート減水剤 マジノン
強力接着剤 エポロン
白アリ用防腐防蟻剤 アリノン
止水板 ポリビン

山宗化学株式会社

本社	東京都中央区八丁堀2-25-5	電話(552)1261代
大阪営業所	大阪市西区江戸堀2−47	電話(443)3831代
福岡出張所	福岡市中央区白金2−13−2	電話(521)0931代

高松出張所	高松市錦町1−6−12	電話(51) 2127
広島出張所	広島市舟入幸町3−8	電話(91) 1560
和歌山出張所	和歌山市舟大工町30	電話(31) 7520
静岡出張所	静岡市春日町2−15	電話(54) 4824
富山出張所	富山市稲荷元町1−11−8	電話(31) 2511
仙台出張所	仙台市原町1−2−30	電話(56) 1918
札幌出張所	札幌市中央区北2条東1丁目	電話(261) 0511

484 森林の利水及び防災機能について (2) (19~23) 高村舜介
485 水力電源開発の動向 (24~30) 合田昌満
486 北上大堰工事について (その2) (31~38) 山内恒雄
487 宮川水系と伊勢神宮 (46~48) 浜口庄一
488 応用水文学入門講座 第1回 (49~55) 岡本芳美

河 川 346 75—5

489 河川改修 (4~27) 河川局治水課
490 河川総合開発 (28~42) 河川局開発課
491 水資源開発事業 (43~47) 水資源開発公団
492 砂 防 (48~56) 河川局砂防部
493 急傾斜地崩壊対策 (57~59) 河川局傾斜地保全課
494 海 岸 (60~68) 河川局海岸課
495 災害復旧 (69~72) 河川局防災課
496 河川計画 (73~79) 河川局河川計画課
497 河川管理 (79~83) 河川局水政課

河 川 347 75—6

498 昭和 50 年における水質保全行政 (12~17) 西村純幸
499 目黒川を青い水面に 住民パワーと行政 (19~28) 梅野峰宏
500 建設省技術研究報告 (2) 荒廃渓流の河床変動に関する研究 (29~34) 山内 修

水道協会雑誌 488 75—5

501 配水管理のための管網解析プログラム (2~13) 高桑哲男
502 原子吸光分析による装置の取り扱いと分析操作 (14~23) 塚本・柴田
503 第 10 回国際水道会議報告，水平スラストボーリングによる大口径管の布設—日本報告— (24~32) 斎藤正昭

工業用水 199 75—4

504 国土利用計画法について (2~8) 小林 一
505 河川水利の現状と展望 (9~14) 内藤 勲
506 食用油工場廃水の生物処理プラスチック散水濾処理における適正条件 (15~19) 長尾万治，外5名
507 井戸のヒ素について (20~22) 許東栄
508 スリップ・オン継手のシール機構と性能について (23~29) 長尾・渡辺
509 石川県手取川犀川下流適正化調査報告 (30~48) 名古屋通産局開発業務課
510 和歌山市河東，河西工業用水道事業の概況 (49~59) 和歌山市水道局

工業用水 200 75—5

511 第2期鹿島工業用水道にかかる土地収用の経過について (15~21) 菊地不二夫
512 千葉県工業用水 10 年をかえりみて (22~38) 木川 進
513 工業用水道における水質管理 (39~44) 赤沢 寛
514 川島市における計装化の変遷 (45~53) 室屋浩一郎
515 水質試験 (濁度) の進歩 (54~61) 管野明男
516 排水の再利用について (62~67) 井上源之助
517 スラッジの処理処分について (68~75) 山口勝征

下水道協会誌 12—131 75—4

518 英国の水制度改革が示唆するもの (4) (2~21) 久保 赳
519 大阪市の下水道使用料改定 (22~32) 武貞一彦
520 浅い汚濁河川における BOD, DO 収支のシミュレーション (1)—数理モデル— (33~38) 合葉修一，外4名
521 合流式下水道の改良 (滞水池方式) (39~46) 松原重昭
522 エアレーションタンクの自動制御 (47~57) 加藤・鍛治倉・小出
523 活性炭による下水処理—高分子量物質を含む水溶液の収着— (58~66) 立本・嶋田・北川
524 東京都森ケ崎 (東) 処理場の概要 (67~76) 長浜健彦
525 農地還元した場合の下水汚泥中の微量元素の挙動と影響 (その2) (77~87) 斎藤・富沢
526 技術の移送に関するアメリカ合衆国環境保護庁の経験 (88~92) 亀山建一
527 環境管理の中の重要な要素—自然— (93~96) 石川忠男
528 合流式，分流式下水道システムの効果に影響を与える諸因子 (97~99) 大矢爽治
529 下水ラグーンにおける栄養分の要求度と除去率 (100~101) 小野耕一
530 海洋の表面水膜における細菌性浮生生物による有機物の分解 (102~103) 地田修-

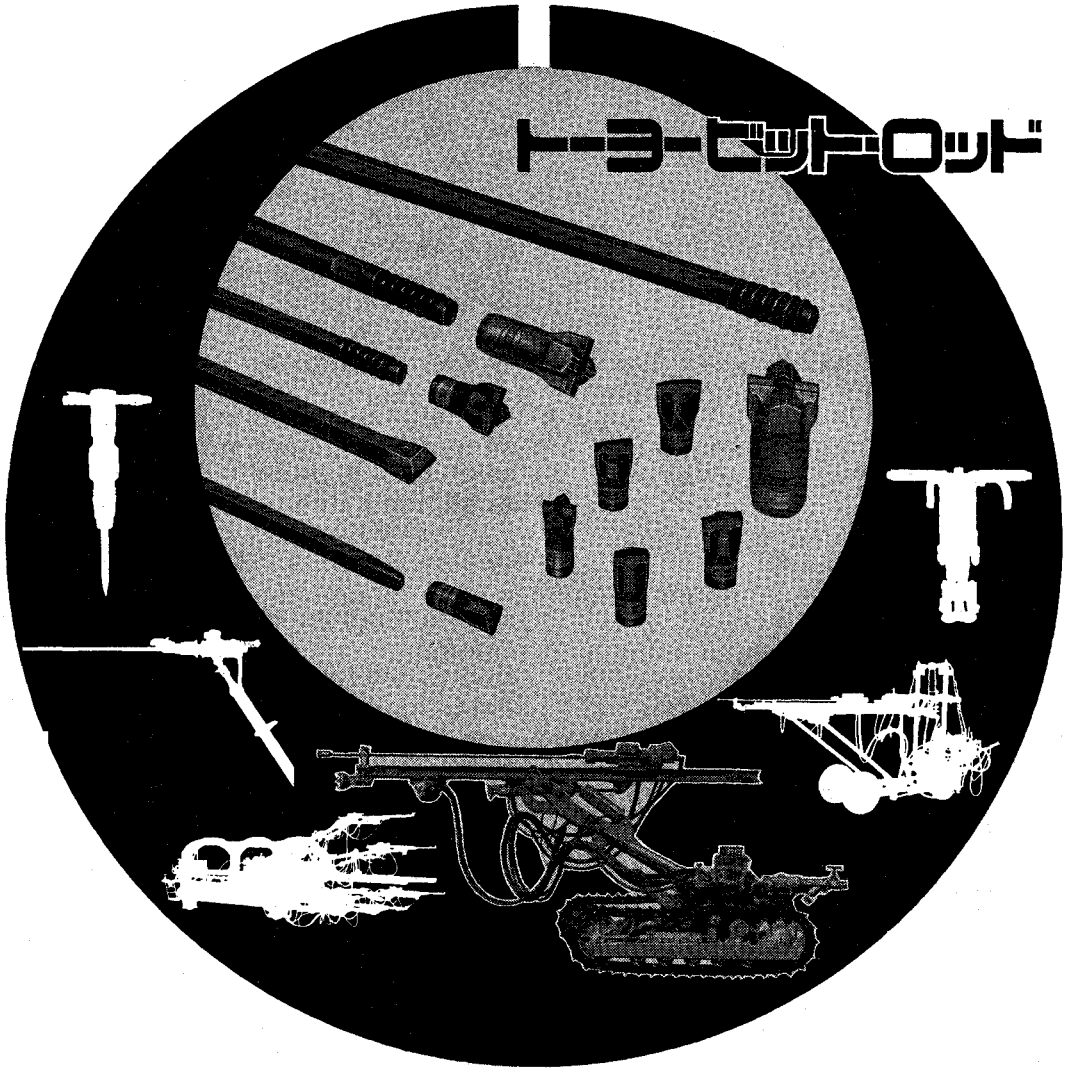
下水道協会誌 12—132 75—5

531 神戸市の末水洗対策 (2~8) 伊藤治行
532 河川汚濁制御のための下水道整備計画に関する事例研究 (9~25) 堤・萩原・高橋
533 浅い汚濁河川における BOD, DO 収支のシミュレーション—多摩川中流域への適用例— (26~37) 合葉修一，外4名
534 し尿負荷率からみた家庭下水の処理性に関する研究— (38~43) 寺町・寺嶋・神山
535 活性汚泥の呼吸速度に及ぼす撹拌の影響 (44~53) 田中・宗像・本田
536 2層濾過による2次処理水の濾過実験 (54~63) 依田 達
537 下水処理場における脱臭 (64~68) 原田良誠
538 清水市南部終末処理場概要 (69~65) 丸山晴史
539 農地還元した場合の下水汚泥中の微量元素の挙動と影響 (その3) (76~90) 斎藤・富沢
540 多段炉と流動層燃却炉とに関する最近の展望 (91~94) 船越泰司
541 浄化そう汚泥の処理，処分に関する設計指針 (95~98) 斎藤健次郎
542 生物学的脱窒素のテストプラント実験 (99~101) 高橋哲郎
543 活性汚泥の浮上分離における汚泥性状の影響 (102~103) 真柄泰基
544 水質汚濁防止のための生物学的連続モニタリング (104~107) 岡田光正
545 圧送下水管内における硫化物の生成と酸素注入によるその防止 (107~114) 中辻 勝

水処理技術 16—4 75—4

546 天然水および汚濁水の紫外吸収スペクトル—溶存有機物含量の指標として I 紫外吸光物質の本質 (3~8) 小倉紀雄
547 団地廃水の高次処理システムの設計と制御に関する研究 (9~19) 平岡正勝，外4名
548 グリオキシム試薬によるパラジウムの抽出吸光光度定量 (21~25) 増田・梶原
549 相対安定度の修正 (27~29) 荻原耕一
550 都市近郊河川における富栄養化 (1) 汚水が河床層の基礎生産に及ぼす影響 (31~35) 田中庸央
551 活性炭を接触材とするアンモニアの硝化—その4— (37~39) 武田福隆，外4名
552 陰イオン交換分離，還元溶出によるクロム (VI)，クロム (III) の分別定量 (45~49) 山重 隆
553 下水二次処理水の高度処理—川崎市下水処理場における実験報告— (51~63) 三菱化工機 (株)
554 第7回国際水質汚濁研究会議提出論文抄訳—最適のプロセ

ビット・ロッドの
機能を高めれば高めるだけ
本体との関連も密接になります。



《一貫生産すればトータルで品質も向上》

さく岩機の性能を、より有効に生かすためには、ビット・ロッドの性能もそれに伴なわなければなりません。
良いビット・ロッドとは、使用命数の増大、さく孔速度の上昇、労力経費の減少、消費力の節減、製品の均一性などの条件を備えていることです。
トーヨービット・ロッドは、掘進機械に対する多年の経験と、つねにビット・ロッド、さく岩機の性能を一貫して研究し、このつながりをもっとも有効に生かすよう設計されていますので安心してご使用ください。

TOYO
ROCK DRILL

発売元
東洋さく岩機販売株式会社
東京本・支店：東京都品川区東五反田1丁目13-12(秀和五反田ビル)
支店・営業所：大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島
製造元 **東洋工業株式会社**

ス運転による下水からの脱窒 (65~68) 大庭真治

555 羊毛工場における下水処理の再利用 (69~72) 山田　豊

水処理技術　16—5　75—5

556 天然水および汚濁水の紫外吸収スペクトル—溶存有機物含量の指標として 1．有機物濃度の指標として用いられた例 (1~10) 小倉紀雄

557 静的撹拌機（スタティックミキサー）による酸素移動に関する研究 (11~19) 松本順一郎，外３名

558 都市近郊河川における富栄養化 (2)—窒素およびリンの存在様式と存在量— (21~26) 田中・西田・坂井

559 農薬類のカラフトマス稚魚に与える致死状況 (27~34) 黒田久仁男

560 加圧式活性汚泥法による廃水処理 (35~42) 篠塚・団

561 BOD に関する共同実験について (43~53) 環境分析技術協議会

562 ルール河流域の水質と水質管理 (61~68) 川下好則

水処理技術　16—6　75—6

563 水を売る油送船 (1~5) 石野紀元

564 吸着樹脂の物性と水処理への利用—（第３報）吸着樹脂の水溶液中吸着速度— (7~13) 浦野・飯塚・杉山

565 各種土壌の水抽出液および天然水の紫外吸光度特性について (15~21) 渡辺紀之

566 PCB の生分解性と処理の検討 (23~28) 箕箸・橋永・太宰

567 ダム湖における夏の水位低下と秋のプランクトンの異常発生をめぐって (29~32) 森下郁子

568 下水の三次処理における濾過—東灘下水処理場における三次処理研究から— (37~44) 松浦武司

569 都市近郊河川における富栄養化 (3)—ある小湖の富栄養化に関する二，三の考察— (45~48) 田中・佐野

570 京都市内河川の水質変動—分析結果に基づく水環境の判定— (49~72) 美濃照子

用水と廃水　17—4　75—4

571 環境容量についての一考察（Ⅰ）—自浄作用と許容汚濁負荷— (3~14) 大塩敏樹

572 水質の総量規制と水質保全対策 (15~19) 大野邦彦

573 排水量の連続測定における諸問題 (20~25) 梶山正三

574 生活系固体廃棄物の性状とその処理の考察（18）(29~34) 栗原四郎

575 新しいパイプクリーニング技術 "Agud Polly Pis" について (35~43) 小島貞男

576 公害防止のための水処理技術（Ⅸ）(63~69) 洞沢　勇

用水と廃水　17—5　75—5

577 東京都における水質の総量規制 (3~9) 溝呂木　昇

578 大阪府における水質の総量規制 (13~20) 大阪府生活環境部水質課

579 宮城県における水質の総量規制 (23~28) 宮城県生活環境部公害規制課公害調整課

580 四日市港域の COD 総量規制の導入と問題点 (29~36) 片岡郁三

581 兵庫県における水質の総量規制 (37~41) 藤井昌昭

582 大分県における水質の総量規制 (42~45) 児玉俊明

583 環境容量についての一考察（Ⅱ）—自浄作用と許容汚濁負荷— (65~75) 大塩敏樹

584 生活系固体廃棄物の性状とその処理の考察（19）(76~79) 栗原四郎

585 公害防止のための水処理技術（X）(101~107) 洞沢　勇

空気調和衛生工学　49—4　75—4

586 オフィスビル用途別毎時給水負荷算定法に関する研究（2）(327~346) 谷口・並木

587 水平円形フィン付き管の強制対流熱伝達 (347~353) 山田悦郎

588 ステンレス鋼管の屋内配管への適用およびその実施例 (355~366) 神津・岡・加藤

589 ASHRAEモントリオール大会に出席して(367~368)木村建一

590 給排水設備の国際会議に出席して (369~391) 紀谷文樹

空気調和，衛生工学　49—5　75—5

591 電気アナログ法による地中埋設管の熱損失・温度分布計算 (441~450) 田中・林

592 日本における空気調和の省エネルギー手法とその動向 (451~476) 中原信生

593 ASHRAE 大会 "国際年" 行事に参加して (477~481) 新・中原

空気調和，衛生工学　49—6　75—6

594 電算機による地域冷暖房システムアナリシス (537~557) 早川一也，外５名

595 マルチノズル超音速空気エゼクタの実験的研究 (559~571) 山本富士夫

596 京王プラザホテルにおける地域熱源冷水受入れの実態 (573~584) 石垣　肇，外３名

水温の研究　19—1　75—5

597 熱塩対流とバンダ湖の成層状態への応用 (2~17) 由佐悠紀

598 山形県，寒河江川—臥竜橋：無雪期・地下水流出が卓越する場合 (18~27) 槻田　浩

599 電子計算機導入による現状農業水利の広域水管理事業の重要性について (28~33) 南　勲

水門鉄管　92　75—5

600 手取川第一発電所工事の概要 (1~9) 川嶋登紀衛

601 水圧鉄管の水撃圧と振動 (10~24) 秋元徳三

602 長径間単段ゲートの水理実験 (25~32) 西川秀利

603 ゴム講座 (33~44) 松尾誠三郎

ダム日本　367　75—5

604 大雪ダムの設計と施工 (17~50) 古明地・吉田・山下

605 広瀬ダムの基礎処理 (51~64) 鈴木・広瀬・伊藤

606 ダムコンクリートの打設工程計算について (65~72) 浅井喜代治

607 ダム補償の在り方に思う (79~81) ちかもとじゆん

港湾荷役　20—1　75—1

608 大阪港における港湾労働問題の現状と問題点 (103~107) 間口良男

609 東京圏冷蔵倉庫貨物流動状況等調査について (110~120) 吉田征夫

610 わが国における港湾荷役の変せん (121~127) 茅野亮二

611 堺泉北港 (128~133) 川端博信

港湾荷役　20—2　75—3

612 東京湾におけるタンカー荷役の概況とその災害対策について (203~207) 田中芳雄

613 貨物海上保険と港湾における貨物の滅失，損傷 (208~212) 武藤博之

614 横浜港全天候形解専用上屋および荷役設備について (213~220) 横浜市港湾局

615 沖縄の港湾 (221~226) 対馬　一

OCEAN AGE　7—5　75—5

616 水路部における「海の基本図」の測量 (20~26) 岩渕義郎

道路・橋梁メンテナンスのパイオニア

より強く
耐久性があり
より急速施工が可能で
より作業性の優れた
新しい素材・工法を求めて
ショーボンドは
未来を見続けています

ショーボンド建設 株式会社
〔旧社名：株式会社ショーボンド〕

営業網：全国43ネットワーク
本社：東京都新宿区市谷本村町34
ヴォーグビル
☎ 03(269)8101代表

617 国土地理院における海洋調査 (27~33) 大竹一彦
618 地質調査所の日本周辺海底地質調査活動 (34~39) 井上英二
619 東大海洋研における海洋地質の調査 (40~45) 奈須紀幸
620 東海大学海洋学部海洋資源学教室における海洋地質・海底鉱物資源調査の現状 (46~51) 杉山隆二
621 わが国周辺海域における石油探鉱 (52~62) 石和田靖章
622 地質調査所による 1974 年度の深海底鉱物資源調査 (63~69) 水野篤行
623 深海底金属塊の工業的採鉱法 (75~80) M.M. Gauthiet
624 原子力開発と海洋 (85~91) 浅井恒雄

衛　生

Jour. Water Pollution Control Federaion 47—4 75—4

625 Water conservation in Sweden l. Legislation. (664~669) Carlberg, S.
626 II. Pollution control. (669~672) Liedberg, A., et al.
627 III. Current taends. (673~674) Lundkvist, S.
628 Water conservation Problems in the greater Stockholm region. (675~683) Cronström, A.
629 Underground wastwater treatment plants. (684~687) Isgard, E.
630 Final disposal of municipal sluge in Sweden. (688~695) Tullander, V.
631 Swedish experiences in chemical treatment of wastewater. (696~703) Ulmgreh, L.
632 Kinetics of activated carbon adsorption. (704~719) Westermark, M.
633 Minitest method for monitoring effluent quality. (720~726) Elfving, E. et al.
634 Nitrogen removal in a pilot plant. (727~740) Ericsson, B.
635 Composting and use of compost in Sweden. (741~747) Hovsenius, G.
636 Industry efforts for the environment. (748~759) Bruneau, L.
637 Industry-community treatment plant. (760~763) Nilsson, L.
638 Metal-finishing waste treatment in Sweden. (764~772) Göransson, B., et al.
639 Wastewater treatment at Swedish steel mills. (773~782) Bengtsson, B., et al.
640 Environmental protection in Kraft pulp mills. (783~788) Knuts, A., et al.
641 Water pollution from agricultnre. (789~795) Brink, N.
642 Oil spill protection in the Baltic Sea. (796~809) Landner, L, et al.
643 Swedish perspectives on mercury pollution. (810~822) Jernelöv, A., et al.
644 Nutrient budgets for the inner Archipelago of Stockholm. (823~833) Karlgren, L. et al.
645 Lamella sedimentation: A compact separation technique. (834~842) Forsell, B., et al.
646 Modeling microbial growth in wastewater treatment. (843~850) Hultman, B.
647 Bioassay methods of the National Swedish Environment Protection Board. (851~857) Hasselrot, T.B.
648 Interlaboratory study of methods for chemical analysis of water. (858~866) Ekedahl, G., et al.
649 Submerged polyethylene pipes in lakes, rivers, and the sea. (867~873) Janson, L-E.

Jour. Water Pollution Control Federation 47—5 75—5

650 Ether soluble constituents of landfill leachate. (921~940) Burrows, W.D. et al.
651 Scaling laws for coagulation and sedimentation. (941~949) Delichatsios, M.A., et al.
652 Thermophilic digestion at the Hyperion Treatment. plant (950~961) Garber, W.F., et al.
653 Metal removal by physical and chemical treatment processes. (962~975) Maruyama, T. et al.
654 Biologically mediated inconsistencies in aeration equipment performance. (976~988) Albertson, O.E. et al.
655 Biological treatment of concentrated ammonia wastewaters. (989~997) Hutton, W.C. et al.
656 Joint treatment of pulping and municipal wastes. (998~1004) Barton, C.A. et al.
657 The relationship between process configuration and process performance. (1005~1011) Schroeder, E.D.
658 Cellulose degradation in wastewater treatment. (1012~1020) Edberg, N. et al.
659 Analysis and characteristics of trichloroethylene wastes. (1021~1031) Camisa, A.G.
660 The release rate of nutrients from river and lake sediments. (1032~1042) Fillos, J. et al.
661 An automated spectrophotometric suspended solids analysis for aetivated sludge. (1043~1054) Finger, R.E. et al.
662 Dynamic modeling and control strategies for the activated sludge process. (1055~1080) Busby, J.B. et al.
663 Phosphorus distribution in blackstrap lake Sediments. (1081~1085) Hwang, C.P. et al.

Water & Wastes Engineering 12—5 75-5

664 Minneapolis keeps on truckin'. (24~29) Taflin, C. et al.
665 Coagulant recovery takes planning. (47~48, 104) Dunkle, C.G.
666 Oil makes separation slicker. (68, 70, 72, 76, 78) Rosenblatt, T.M. et al.
667 Rates must be fair. (31~34) Mac Gregor, J.D.
668 Computing the big picture. (37~39, 86) Grigg, N. et al.
669 Water plant goes automatic. (59~61) kron, C. et al.
670 Management improvements but costs. (42~45) Rice, I.M.
671 In-line filtration may be just for you. (50~57) Venema, G.J.
672 Odor Problems? Dont just hold your nose. (62, 64, 67, 82) Boscak, V. et al.
673 Maintenance slashed on D.O. probes, (80~80) Nevelus, J.
674 Publicity: How do you feel about it? (85~86)

流体研究分野での能率を一段とアップします。

熱線流速計 21-1000ser.

熱線流速計21serは〝流れ〟を熱伝達理論に基づき、電気的に解析する流速計です。広範囲の気体・液体・ガスの平均流速・乱流強度温度変化を電圧変化として精密にとり出すことができます。プローブと組み合わせて、流速—電圧の変換器の働きをするコントロールユニット、不必要な信号を除去するハイパス・ロウパスフィルタ内蔵の指示計ユニット、係数が自由に選べるリニアライザユニット、最大6コのプローブを接続することができるプローブセレクタユニット、温度補償ユニット、演算器ユニット、電源・ケースユニットなど、トランスデューサから信号処理器までのシステムをそれぞれユニットの組み合わせで使用できるようにしています。

- コントロールユニット、リニアライザユニット、指示計ユニット、電源・ケースユニットと組み合わせて使用するのが標準です。
- 平均流速の測定から乱流強度の測定、2方向性乱流成分の測定、相関係数の測定など、巾広い測定領域をカバーします。
- 測定条件あるいは測定対象に合わせてご使用いただけるよう、プローブの種類、サポートの種類を豊富に準備しています。

仕様

測定対象	液体流・気体流の平均流速・乱流値・温度変化
周波数応答	50KHz(5 $\mu\phi$ タングステンプローブ使用時)
雑音	1KHz帯域幅：0.1mV R.M.S
ブリッジ比	1：1、1：20、1：100
出力電圧	20V(MAX)
その他	リニアライザ、シグナルインディケータ、電源・ケース、コントロール、の各ユニットに分化
定価	上記本体部のみ 1,188,000円
プローブ	ホットワイヤ、ホットフイルムなど数10種類を用意しています。
カタログNo.	2303

KANOMAX

日本科学工業株式会社

本社・工場／大阪営業所
大阪府吹田市清水2番1号 〒565 TEL 大阪(06)877-0443(代)
東京営業所
東京都千代田区1番町9番地 〒102 TEL 東京(03)265-4861(代)
名古屋営業所
名古屋市中区大須4-1-71(時計ビル) 〒460 TEL 名古屋(052)241-0535